

ニホニウム通り紹介

シーアイハイツ和光管理組合 広報委員会

和光市駅のコンコースにあるエスカレーターの登り口脇の柱にあまり目立ちませんが「113Nh ニホニウム発見のまち 和光市」と書かれたプレート(写真①)があります。エスカレーターを上がって外に出て左に進むと路上に「原子番号1 H 水素」のプレート(写真②)がはめ込まれています。この路上のプレートは原子番号順に各元素名が表示されていて、駅前から外環道の方角に進み、その交差点を右に曲がって旧川越街道、国道254号線を超え、理化学研究所和光研究所(理研)の西門まで続いています。この通りは「ニホニウム通り」と呼ばれています。西門には原子番号113番のニホニウムを表す大きなモニュメント(写真③)があります。路上のプレートは西門を少し過ぎたところまで続いている、既知の元素の中で最大の原子番号および原子量を持つ「原子番号118番のオガネソン Og」(写真④)が最後になっています。

理化学研究所までの道の名称を公募し、決まったのが「ニホニウム通り」ということです。

これに関連し、歩道上のプレートのほかに、いくつかのモニュメントも作られています。先に述べた理研西門の「ニホニウムのモニュメント」、駅前のわこうっち像を上に乗せた案内板裏の「元素周期表」(写真⑤)、ニホニウム通りと外環道との交差点にある「元素周期表モニュメント」(写真⑥)、外環道上の「Nh モニュメント」(写真⑦)と「周期表年2019記念モニュメント」(写真⑧)があります。



写真①



写真②



写真③



写真④

理研の森田浩介博士を中心とした研究グループは、原子番号113番の新元素の合成に成功し、平成28年11月30日に国際純正応用科学連合によって、この新元素の名称を「ニホニウム」とすることを認定されました。市では、この世界的な偉業を記念して、和光市駅から



写真⑤



写真⑥



写真⑦



写真⑧

市は、「113Nh ニホニウム発見のまち 和光市」を一つのアピールポイントとしてPRしてゆこうということのようです。

